



阿南高等学校 校歌

一 峰より峰に 雲は深く

谷より谷へ 水はたぎつ

見よ今風はれ 空輝やき

さざ波清く たたえたり

学べば自由の 天地開けて

ここに阿南の 文化あり

二 丘には 桜椿照りて

芭蕉も棕櫚も 茂りあえり

ゆたけき茎穂の 稲かざして

白亜の校舎 仰ぐとき

あふるる希望よ 常に新たに

明日の使命と 世界あり

阿南よ誇れ 高校の

その名にこぞる われらあり

土岐善磨 作詞
信時 潔 作曲

第一 応援歌（遥かなる栄光）

一 遥かなる栄光を胸に

南宮の丘に集いて

烈日の下に集いて

黙々と励みの日には

訪れぬ友の希望を負いて

阿南五百の希望を負いて

二

赤石を高く仰ぎて

積みしその辛は幾重

見よ固き意思は常に

勝利への門戸は常に

開かれ友人の等前に

ゆけよ力に満ちて

張れる力を満ちて

三

東南西北に野を征む

力ある君の行くむ

争うは龍のそれに

風を巻く嵐の中に

闘えよ友の希望に

阿南五百の希望に

四

白雲は遠く流れて

陽光は遠く流れて

おほく今と輝きぬ

獲ちた勝利の光を

大いなる母の栄光を

歌えよとど限り

青空にとど限り

金田 博澄 作詞
塩沢 真澄 作曲

第二応援歌（いざ起て選手）

一 いざ立て選手雲をつけ

競う嵐のその中に

わが高校の旗の為

花は吹雪にまかすとも

犠牲の血潮に洗うとも

二 続くぞ行くぞ応援歌

根城にせまれわが選手

かしこに陣羅攻太鼓

此処に矢叫びときの声

天に凱歌の響きあり

第三応援歌（秋空高く）

一 秋空高く風さわやか

天鳥駆りトンボとぶ

健児五百の鉄腕に

綴り繰り展たる体育の

絵巻さんたり

ああ我等若人

意気に燃ゆ

二 天竜川の川波は

熊伏山の影映し

千尋の底の珠探る

いざゆけ友よ栄冠への

絵巻さんたり

ああ我等若人

雄叫びす

唐沢 勉三 作詞
塩沢 真澄 作曲

阿南高等学校賛歌

作詞 水野都沚生（国語教諭）
作曲 久保田創二

一 征く水遠き天竜の

清き流れに見はるかす

南アの尾根を仰ぎつつ

阿南学徒が鍛えきし

この鉄腕の逞しさ

見よ漕ぐ力 見よ滑る艇

* 栄冠つねにわれにあり

二 吹く風ゆるき南宮の

この山峡にはぐくまれ

迎えし春秋いくたびぞ

阿南学徒が努めきし

この健脚の素晴らしさ

見よ踏む力 見よ駆ける足

*（同じ）

三 飛ぶ雲速き熊伏の

冷たき風とたぎつ瀬の

ダム湖面の夕光り

阿南学徒が眺めきし

この生命のかぐわしさ

見よ張る力きけ叫ぶ声

*（同じ）

四 ああこと永遠に聳え立つ
この学び舎にこの庭に

集い散りゆく若人よ

阿南学徒が築ききし

この伝統の誇らしさ

見よ十周年 見よ栄ゆる年

*（同じ）

阿南クルーの歌

作詞 水野都沚生（国語教諭）
作曲 古池 充（音楽教諭）

一 我ら阿南のボートマン 桜吹雪を見に浴びて

オール引く手に夢がわく（繰り返す）

* トラトララ阿南 トラトララ阿南

阿南クルー

二 我ら阿南のボートマン 青い嵐に胸を張り

オールも折れよとグット漕ぐ（繰り返す）

*（同じ）

三 我ら信濃のボートマン 峡の紅葉も色添えて

オール持つ手に照り映る（繰り返す）

*（同じ）

四 我ら阿南のボートマン みぞれも雪も何のその

オール持つ手に汗が散る（繰り返す）

*（同じ）